

本県特産品・廃棄部分に光

アピオスの花 血糖上昇抑制

県立保健大 岩井教授 マウスで 実証

本県の特産であるアピオスの花の成分に血糖上昇を抑える作用があることが、県立保健大の岩井邦久教授(健康科学部栄養学科)の研究で分かった。花の成分をマウスに投与した結果、投与しなかったマウスに比べて37%も血糖上昇を抑制できた。人に対しても同様な効果が確認できれば、糖尿病予防食品などに利用できるのではないかと、岩井教授は期待している。

糖尿病予防へ期待



岩井邦久教授

「ホドイモ」とも呼ばれるアピオスは、栄養価の高さで知られ、シヤガイモに比べ鉄分が4倍、タンパク質が3倍含まれる。岩井教授



夏に開花するアピオスの花。岩井教授の研究で、花の成分に血糖上昇抑制作用があることが分かった(写真は岩井教授提供)

によると、数年前の調査で、県内で年間約45ト生産され、全国の約7割を占めるという。主に五戸町、七戸町などで栽培されている。岩井教授は7年ほど前から、株式会社倉石地域振興公社(五戸町)と共同でアピオスの研究を実施。アピオス成分に、血圧を下げる効果や中性脂肪を減らす作用があることを確認している。さらに今回は、花の成分にも着目。夏に開花し、生産現場でほとんど廃棄される花の成分を研究し、活用の可能性を探った。動物の小腸には、炭水化物を分解する酵素「マルターゼ」があり、それが糖分の吸収を促すことは知られている

が、岩井教授はアピオスの花の部分にマルターゼの働きを抑える成分があり、その物質が「カフェオイルβ-D-グルコピラノシド」であることを発見。

さらにマウスを使った実験では、花の成分が血糖上昇にどう影響を与えるかを調査。糖尿病のマウス5匹に、アピオスの花の成分と糖質を飲ませたところ、糖質だけ注入した花の成分を注入しなかった場合に比べ、平均37%も血糖上昇を抑え、若干の血糖上昇抑制効果が見られた。岩井教授は「アピオスの花の成分に糖質吸収抑制作用があることが初めて実証された。健康的な新しい食の資

源としての可能性が示された」と説明。糖尿病は、高血糖状態が続くと、血管が劣化したり臓腑(すいぞう)の働きが悪くなる病気であるため、「重篤でない糖尿病の人や糖尿病予備軍の人が、アピオスの花の成分を摂取することで、血糖値をコントロールでき、病気の悪化を防ぐことができるのではないか」と語り、さらに研究を進める方針だ。県立保健大と倉石地域振興公社は昨年8月、アピオスの花の成分と血糖上昇抑制効果について、共同で特許出願している。